

観光社会資本の事例

テーマ	ほたる飛び交う西の京	
【施設の状況写真】		
		
<p>昭和48年頃整備したホタル護岸は、ゲンジボタルをはじめとした水生生物にとって良好な生育環境を作り出し、また街並みにもとけ込んでいる。</p>	<p>ホタル護岸の考え方は踏襲しながらも、川へのアプローチを可能にした親水護岸はイベント等での利用も期待される。</p>	
【施設の利用写真】		
		
<p>春は、桜の名所として、訪れた多くの人々の目を楽しませる。</p>	<p>初夏には、多くのゲンジボタルが乱舞し、幻想的な世界をつくり出す。</p>	
【観光資源としての利用状況】		
<p>室町時代に大内氏が、一の坂川を京の賀茂川、榎野川を淀川に見立てて京の都に模した街づくりを行った山口市は、「西の京」とも呼ばれている。</p> <p>一の坂川はゲンジボタルの生息地として国の天然記念物に指定されており、毎年6月初旬には「ホタル祭り」が行われ、山口の初夏の風物詩となっている。また、平成8年からは秋に「アートふる山口」のイベントも行われており、一の坂川周辺の大路小路が美術館に早変わりする。</p> <p>春は桜並木とツツジ、夏はホタル、秋は紅葉、冬は雪景色と一年を通じて四季折々の表情が楽しめる一の坂川は、周辺の瑠璃光寺五重塔やサビエル記念聖堂等の名所とともに、多くの観光客が訪れている。</p>		

テーマ	ほたる飛び交う西の京
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>○名称 一の坂川</p> <p>○所在地 山口県山口市中河原町</p> <p>○事業名 総合流域防災事業</p> <p>○事業主体 山口県</p> <p>○事業期間 平成7年～平成30年</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>○治水効果</p> <p>一の坂川流域は、昔から溢水氾濫に悩まされてきたが、昭和40年から昭和55年にかけて小規模河川改修事業により河道を改修し、昭和59年には一の坂川ダムが完成したことにより、100年に1回程度発生する洪水に対しても安全となっている。</p> <p>○ホタル護岸整備</p> <p>亀山橋～伊勢橋はホタルの生息条件を考慮した本県初のホタル護岸により改修が行われており、亀山橋より下流についても、現在のコンクリートで固められた三面張の河道からホタル護岸へと鋭意改修が行われ、生物の生息環境、親水性の改善が図られ、市民や観光客の憩いの場として親しまれている。</p>	
<p>【位置図】</p> 	
<p>【関連ホームページ】</p> <p>山口市ホームページ http://www.city.yamaguchi.yamaguchi.jp/</p>	